入学おめでとう

「中央大学から世界へ、中央大学から未来社会を」

学長
福原 紀彦
Tadahiko FUKUHARA

今春、中央大学に学びの場を求める皆さんを、教職員一同、心から歓迎致します。皆さんが大学進学のために重ねられた努力を讃えますとともに、本学への入学をお祝い申し上げます。本学の環境を活用して、大いに学業に励み、学術・文化・芸術・スポーツ・ボランティア等の諸活動に参加して、それぞれの資質と能力を磨き高めて、大きな成長を遂げられることを期待致します。

中央大学は、1885年に英吉利法律学校として創設され、「白門」を象徴とする130年を越える歴史と伝統を築きながら総合大学として発展し、「實地應用ノ素ヲ養フ」との建学の精神を社会で実践することを使命としてきました。このことは、今日、多様な学問研究と幅広い実践的な教育を通して「行動する知性。―Knowledge into Action―」を育むという本学のユニバーシティメッセージとして受け継がれています。

Society5.0とも言われる今後の人類社会においては、与えられた情報から必要な情報を引き出して活用することができるリテラシーに加えて、獲得した知識と技能を生かし、未知の課題であっても創造的かつ自発的に取り組むことができる「コンピテンシー」を身につけ、グローバルな視点と発想で活躍できる能力と資質が求められます。本学の建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養フ」という表現にある「素」とは、このコンピテンシーにほかなりません。中央大学で学ぶ皆さんには、進化が著しい未来社会で活躍するために、先人の経験だけでは明確な答えが得られない問題にも取り組み、持続可能な人類社会を構築できるコンピテンシーを身につけ、自らの未来を拓いて欲しいと思います。

大学で学び究めるということは、真理を追究して人類社会の持続的発展に資するという普遍的な意味をもっています。表層的な技術や知識の習得ではなく、本学での特色ある学修と、本学在学によって得られるさまざまな機会を通じて、公共性と社会性を有する知性を身に付けて戴きたいと思います。

皆さんの大学での修学環境が、今、大きく変容していることを理解しておくことも大切です。本年度から、半期の授業は100分14週で行われます。増大する学びの量は、ICTを駆使しE-learning などを活用して確保し、学びの質は、Active learningやProject Based Learningなどを経験して高めることになるでしょう。また、柔軟化したアカデミックカレンダーを活用し、長期の休み期間をフルに活用して、有意義な活動を展開することになるでしょう。本年度から、新たに国際経営学部と国際情報学部に新入生を迎えましたが、全学的にも、グローバル化と異分野融合の学修環境がいっそう豊かなものになることを期待しています。

自分の頭で考え、自分の心に想い、自分の身体で感じることに努めて、大学在学中に巡り会う人間関係やさまざまな機会を大切にして、中央大学における学生生活を元気に過ごして下さい。皆さんのご健康とご活躍を心から祈念して、お祝いのご挨拶と致します。

複雑化した社会の中で自己の新たな可能性を主体的に追求する

法学部長
星野 智
Satoshi HOSHINO

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そして、これまでみなさんを支えてこられた関係者の方々に心よりお慶び申し上げます。

みなさんの中には入学前から将来の進路を見据えた明確な目的意識をもって入学されてきた人もいるでしょうし、また将来のことは大学に入学してから考えるつもりであるという人もいるでしょう。入学されたみなさんが中央大学という新しい環境のなかで過ごすことになるに当たって、まず念頭に置いて頂きたいことは、大学での学修以外に多くの可能性が存在しているということです。

入学後の学生の活動はさまざまであり、司法試験や公務員試験などの資格試験をめざしたり、海外留学あるいは国際インターンシップを通じて語学能力を高め外国との交流を深めたり、被災地の支援などのボランティア活動をしたり、あるいはスポーツサークルや文化サークルで活動したりと、多くの可能性が待ち構えています。したがって、これら多くの可能性のなかからどれを選び取るのかが大学生活を開始する際に最初の重要な選択です。もちろん、その選択はみなさんが将来を視野に入れて主体的に決めることであります。大学生活の4年間は長いようで短いことは卒業時に誰しも実感することですので、早い時期に大学生活のプランニングをすることが大切です。

現代はグローバル化の時代とか、第4次革命の時代といわれているように、一方で国境の垣根が低くなって異文化あるいは異空間の人びととの出会いの機会が拡がり、他方でビッグデータ、AIなどがわれわれの生活に深く入り込んでいます。このような時代を生きるための基本的な能力としては、以前と比較して相当程度高い水準のものが求められています。外国語能力もそうですし、ICT環境に対応できる能力もそうです。大学生活においてもこのような状況のなかでいかに自己のパワーアップを図れるのかということも考える必要があります。

大学生活は、人間形成における社会化という過程において、これらの社会変化に対応していくための能力を涵養できる場であります。入学されたみなさんには、大学生活を開始するに当たり、4年間で自己の可能性を実現するためのプランを考え、実行に移す準備を始めて頂きたいと思います。

経済学は世界共通言語

経済学部長
篠原 正博
Masahiro SHINOHARA

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。中央大学経済学部教職員一同、皆さんのご入学を心から歓迎いたします。皆さんは、現在、受験勉強から解放されてほっとされていることでしょう。大学4年間をどのように過ごそうか、あれこれ考えるだけでも期待で胸が膨らみますよね。これから大いに大学生活を楽しんでください。

ところで、皆さんは、毎年マスコミで話題になるノーベル賞のことは当然ご存じでしょう。同賞は、スウェーデンの企業家アルフレッド・ノーベルの遺言に基づき19世紀末に創設されました。顕著な功績をあげた人物に対して授与される世界的に名誉ある賞ですが、「物理学」、「化学」、「生理学」、「医学」、「文学」、「平和」などとともに、「経済学」は社会科学の中で唯一ノーベル賞の対象となっています。経済学は論理的かつ体系的に構築された学問であり、物理学が「自然科学の王様」であるのに対し、「社会科学の女王」と呼ばれています。

経済学は世界共通言語（世界共通の学問）です。グローバル化が進んだ今日、ビジネスマン、公務員、政治家にとっても、経済オンチでは世界で戦うことが困難になってきています。現実の経済現象を論理的に読み解く能力が求められます。

国内外で発生している経済問題は、経済理論、歴史、国際比較などのさまざまな側面からアプローチすることが可能です。いずれのアプローチからでも良いので、経済問題に対して4年間である程度の政策提言を行えることを目指しましょう。他人の意見の請け売りではなく、自分なりの視点から発言できる、そういう人になって欲しいと思います。

将来の日本いや世界を背負う可能性を秘めた皆さんが、中央大学経済学部で有意義な4年間を過ごされることを切に願っております。

「普通に存在している以上の状態」に到達するために

商学部長
渡辺 岳夫
Takeo WATANABE

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。商学部の教職員を代表して，皆さんにお祝いの言葉を申し上げますとともに，皆さんが中央大学商学部の学生となられたことを心より歓迎いたします。

さて、あなたは普段の生活のなかで、どれだけ「普通に存在している以上の状態」に到達したことがあるでしょうか？「それってどんな状態？」という声が聞こえてきそうですね。簡単にいえば、それは時間が経つのも忘れるくらい何かに熱中・没入している状態のことです。趣味の好きな何かや学校の部活をしている時、あるいは勉強（!?）をしている時に、そんな状態を経験したことがある人もいるのではないでしょうか。経験者に尋ねます。あとから考えてみて、そんな状態に到達したときの気分はいかがでしたか？

多くの心理学者が、その状態を「存在の本質的状態（a state of being）」と呼び、人が精神を健康に維持するうえでとても大事なことであると指摘していますが、中にはそういった状態を経験できない人生は人生ではない、とすら言う人もいます。もちろん、何かを経験することによって得られる「結果」も大事でしょう。例えば、部活の試合で「普通に存在している以上の状態」に到達し、そして結果として試合に勝ったこと、また、絵を描いている時にそんな状態になったとして、完成した絵の出来栄えがとても良くて周囲から褒められたことなど、それらの「結果」も確かに努力したことの「しるし」として意味はあるでしょう。でも、それよりもずっと大事なのはやはり、何かに熱中して時を忘れるような、そんな状態に達することそれ自体なのです。

では、そうなるために求められることは何でしょう。最も大事なことは、とにかく熱中できる対象を見つけることです。大学生活は、誤解を恐れずに言えば、自分が生涯をかけて熱中して取り組むことのできる何かを見つけるための「旅」です。一か所に長く滞在する旅もあれば、限られた期間の中で多くの場所を訪れる旅もあります。あなたは、あなたなりの旅をして、自分の生涯の「宝物」を見つけてください。

熱中できる対象を見つけたら、それに熟達するプロセスで必要な知識やスキルを身につけなければなりません。優秀な外科医は手術中、必要な手順やスキルをほとんど意識せずに行使し、局面に没入しつつオペを遂行するそうですが、それを可能にするのは，実は豊富な知識や経験を伴ったスキルなのです。あなた方も、あることについて段々上手になっていくにつれ（つまりスキルが伴うようになってきて）、どんどん楽しくなり、集中できるようになった、という経験があるのではないでしょうか。熱中するのにも必要な条件があるのです。

あなた方がその条件をクリアすることができるよう、中央大学の教職員は精一杯応援します。大事な宝物を見つけ、それに熟達するための楽しい旅に、一緒に出発しましょう！

将来の活躍の舞台はグローバル社会！

理工学部長
樫山 和男
Kazuo KASHIYAMA

理工学部・理工学研究科にご入学の皆さん、入学おめでとうございます。

さて、皆さんは、「SDGs」という言葉をご存知でしょうか？ SDGs（Sustainable Development Goals）とは、国連が策定した2030年に向けて地球規模の課題の解決を目指す国際社会共通の目標（17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲット）です。そして、SDGsで掲げる目標とターゲットは理工学部・理工学研究科のすべての学科・専攻に関係する内容を含んでいます。このため、理工学部・理工学研究科は、SDGsを意識した研究・教育に取り組んでおります。是非、入学を機に、その内容について理解を深めてください。

また、現在はグローバル化の時代と言われて久しいですが、日本の企業の多くはグローバル化に舵を切っています。その理由は簡単で、日本の人口が減少していく中（皆さんが定年を迎えるであろう2060年頃には人口が現在の約７割に減少する）、売り上げや活動の規模を維持・向上させるとなると、日本の企業は市場・労働力を海外に求めるしかないため、海外進出を積極的に行います。このため、日本のグローバル企業では、公用語を英語にしたり、採用の際には英語検定試験のスコアが基準以上でなければ門前払いする事例が増えています。日本で働いていても、英語は避けて通れないというのがグローバル社会です。理工学部では、グローバル社会で活躍できる人材育成を行うため、目的の異なる様々な短期留学プログラムを用意しています。また、大学院では、在学中にほとんどの学生が海外での国際会議に参加して研究発表できる制度を整えています。さらに、今年度から都市人間環境学専攻では英語のみで修了できるコースを開設します。これからは、英語は学問としてではなく、情報発信やコミュニケーションのためのツールとして捉えてください。

最後に、理工系の実学分野は要求される技術レベルがかなり高く、学部で学ぶ内容のみではニーズに十分に対応することが難しいというのが実情です。このため、一般に理工系の学生の多くは大学院に進学しています。是非、理工系の実学分野を牽引する人材になるために、大学院への進学を志してください。

いま、科学技術が社会を大きく変える変革の時代を迎えています。今後、科学者・技術者の出番は益々多くなることが予想されます。将来の夢を描いて、一緒に学問を楽しみましょう！

たくさんの出会いを大切に

文学部長
宇佐美 毅
Takeshi USAMI

中央大学新入生の皆さん、入学おめでとうございます。わが中央大学は、学問の楽しさや奥深さを存分に味わえる場所です。これからその場所で、おおいに学び、おおいに学生生活を楽しんでください。これから皆さんは、今まで出会わなかったような人びと、出会わなかったような考え方に接することでしょう。その「出会い」をどうか大切にしてください。

「出会い」とは、通常は知らないものと初めて出会うことをいいます。たとえば、この社会にはさまざまな年齢の人がいます。この大学では、かなりの年齢差のある人びとが集まっています。皆さんより10歳以上も年上の大学院生もいるでしょうし、中学や高校なら定年退職しているような年齢の先生が皆さんの前の教壇に立つかもしれません。そんな年齢差の中で感じる埋めがたいギャップもあるでしょうし、だからこそ学べることもたくさんあります。

また、「出会い」とは、知らないものと初めて出会うだけではなく、知っているはずのものとあらためて出会うことでもあります。たとえば、この世界には男性と女性がいます。それは誰でも知っていることでしょう。しかし、お互いに知らないことは山ほどあります。同性同士でもわからないことがあります。さらにいえば、男性と女性という単純な二分法では割り切れない性のありかたがあることも、本当の意味ではわかっていないのかもしれません。わかったつもりでいたことをあらためて考えることも、大切な「出会い」なのです。

大学とは、そうした異なるものたち同士が協力したり切磋琢磨したりしながら、新しい何かを作っていこうとする場所です。これからの時代にあっては、世界的な規模で協力をしていかなければ解決できない問題がますます増えていきます。そのような社会にあっては、同じ性質を持つ者同士が団結するだけではなく、異なるもの同士がどのように触れ合っていくのか、どのようにお互いを理解し合って共に生きていくのか、ということがもっとも大切な課題になるでしょう。

皆さんはこの中央大学という場所で、多くの異なるものとの「出会い」を経験しながら、おおいに学んでください。それが、人間の文化と社会のこれからについて考えることに、必ず結びついていくことでしょう。

「目を開けたまま夢を見る」

総合政策学部長
堤 和通
Kazumichi TSUTSUMI

入学おめでとう。総合政策学部は、問題の発見と解決を通してより良い社会の建設に向かうことを理念とする学部です。先行きの見えない時世にこの学部を選んだ皆さんは挑戦の気概に満ちていることと思います。そのような挑戦には、大学での学びを自分のものにすること、生きた知識とすることが肝要で、これは、大学建学の理念である「實地應用ノ素ヲ養フ」ことに通じます。

自分の学びを生きた知識として蓄積させる手法に、社会に生起している実際の問題あるいは事象から考察をはじめ、その検討に当たって終始、その問題、事象から目を離さず、最後にその事象の解明、問題の分析、解決策の提言に進める、というアプローチがあります。

このように、総合政策学部では、学問を修めること、現実の社会を見る目を養うこと、より良い社会に向けた理想を持ち具体策を模索することが求められますが、それには、自身の想像力、論理的な思考力、勤勉さ、視野を広げる姿勢などが必要です。このような力や姿勢はすべて皆さん自身のものであるほかありません。こうしたことを師や先輩、友人から学ぶことが重要なのはもちろんで、学部の少人数教育や学部生間の活発な交流はそのためのものでもありますが、最後には皆さんが自身に身に付けなければなりません。

自身の想像力や思考力はどのような時によく働くのか。どのような時に学びが自身の想像力や思考力をさらに養うのか。肝要なのは、自身の内発的な意欲であり、伸びやかな好奇心であろうと思います。

映画『グレイテスト・ショーマン』は実話をもとに19世紀半ばのプロモーターの半生を描きます。型破りな発想で成功と挫折を繰り返す姿を描く中で、主題歌は、「夢がわたしを目覚めさせる」と歌います。到達点や着地点がどこにあるかが分からない中で、別の劇中歌が歌う、「大空に手を伸ばす」姿が描かれます。「目を開けたまま夢を見る」夢中な姿です。

大学での学びには様々な作法があり、学問分野ごとの用語法や方法論は所与のものとして受け止めることが必要で、とても大切な制約があります。そのような制約の中で学びを進めることで、自身の想像力や思考力が豊かになるものだと思います。分野を問わず、所与の作法を前にするときも、社会に生起する問題や事象を眼前にするときも、内発的で伸びやかに、夢で覚醒したかのような夢中な学びを進めてもらいたいと思います。健闘を祈ります。

有意義な「モラトリアム」を！

A budding movement for making new history - GLOMAC in your heart!

国際経営学部
開設準備室長
（※肩書は3月18日現在）
河合 久
Hisashi KAWAI

On behalf of the faculty and staff at Chuo University, I would like to extend our congratulations on your admission to the Faculty of Global Management—GLOMAC. Welcome to Chuo University! You have been chosen as a member of the inaugural class of GLOMAC. This means that you have gained the honor of having a place in Chuo University's history, and at the same time you are responsible for contributing to the development of GLOMAC. I am convinced that each of you already has great ambition. Therefore, I heartily welcome you to our new faculty.

As you know, companies today actively develop their business overseas. According to a survey, such companies face three major challenges. The first challenge is to secure human resources to carry on overseas business, the second challenge is to understand the regional and cultural characteristics of differing countries, and the third challenge is to develop business strategies conforming to each country's unique circumstances. When we view global management today, becoming a global talent requires not only a command of English and an understanding of different cultures, but also a mastery of basic knowledge and practice related to business management and operations. Therefore, it is important to have a business mind with excellent information literacy and analytical skills as well as to have the ability to act positively and cooperatively in a challenging environment built on the premise of diversity and equity.

The above-mentioned educational philosophy is decisively different from the international faculties of some other universities. In other words, the main theme you will learn is not liberal arts but the way global business should be based on the world economy. I would like you to increase knowledge and competency to play an active role in any global workplace. And I hope that you focus on the United Nations Sustainable Development Goals, contributing to realizing a sustainable society from a business perspective.

Apart from the importance of academia, the four years of college life will provide a great opportunity to make life-long friends, to think about your own living style and to prepare yourself for a long life. What should you do first to lead a meaningful college life? First, you should try talking to nearby persons in your favorite language. You also could ask your professor critical questions. Now, your college life has finally begun. Let's create a lively faculty together at GLOMAC. I wish you a bright future.

国際情報学部
開設準備室長
（※肩書は3月18日現在）
平野 晋
Susumu HIRANO

入学おめでとう御座います。受験という大仕事を終えた皆さんは、新たな大学生活に胸躍らせていることでしょう。大学在学の４年間は昔から、厳しい社会の荒波に乗り出す前の「モラトリアム」（猶予期間）と呼ばれてきました。大学は、高校までとは様変わりして、皆さんの自由度が増します————必修単位が多い国際情報学部では、１・２年次にあまり自由はありませんが————。３・４年次にはゼミや選択科目履修やサークル等に、沢山の時間を費やすこともできます。他方、これまでの大学では何もせず無為に過ごして卒業できてしまう人も多かったので、自由を謳歌できる「猶予期間」と呼ばれているのです。

尤も自由が多い分だけ、相当強く自分を律さなければ、大学生活を充実させることが難しいので要注意です。私自身、多摩キャンパス一年目の秋学期以降に目標を見失い、社会人になってから法科大学院のアイビー・リーグ校（米国）に留学するという強い目標を再発見したので苦労しました。一流校に留学する為には、英語能力を相当向上させねばなりませんでしたから、英語学校にボーナスをつぎ込んだ上に、土日、祝日、及び終業時間後の夜や早朝にしか勉強時間を見い出せなかったので、大変だったのです。

今キャンパスを見渡すと、英語能力向上を支援してくれるプログラムが沢山あってうらやましい限りです。私が学生ならば迷わず TOEFL得点向上プログラム等々を片っ端から受講して、英語力向上に繋がる学術研究団体に所属してスピーチの場数を踏み度胸を身に付けて、英語の資格試験を受験しまくるでしょう。

皆さんの場合は英語力向上が目標でなくても、もちろん良いのです。特に１・２年次には、数多い必修科目の単位取得という目標達成が優先されます。３・４年にも社会に直結した科目が多いので、卒業後の進路に合わせた選択科目の履修で優秀な成績を目標にすることは、卒業後の進路に直結します。それにしても卒業後に向けて、皆さんは何かの達成目標を持って行動しなければなりません。人生でその目標を実現できる時間的猶予があるのは、この４年間だけだからです。しかも大学という所は、自ら<能動的>に学びたい学生に対しては、潤沢な機会を提供してくれます。高校までのように<受動的>に教えてくれるのを待つ学生には、何も与えてはくれません。大学生活の「自由」とは、そういう自由なのです————贅沢な「中大モラトリアム」を、皆さん是非とも〈充実〉させて下さい！